



これから播種できる夏作物

寒冷地

兼子達夫

代雑種を播種しているのはその一例です。

複交系には三号から八号まであり、いずれも早生系ですが、それぞれ生育日数が異なりますから各地に適合したものを選ばなければなりません。発芽から黄熟期に達するまでの生育日数を品種毎にみてみますと、

- 複交六号 一〇〇日
- 複交四号 一〇五日
- 複交七号 一〇五日
- 複交五号 一一〇日
- 複交八号 一一五日
- 複交三号 一一七日

(黄色種 一三〇日)
この日数は気象条件や栽植密度によって多少左右されますが、大体の標準資料として参考にしていただきたいと思ひます。

複交系の栽植株数は一〇ヶ当たり四五、〇〇〇株、畦幅六〇センチであれば株間三五、四〇センチ一本立が適当です。
施肥量は土質により加減さるべきものですが、生草収量六、〇〇〇キ収穫する場合は基準量(一〇ヶ当たりキ)は堆肥二、〇〇〇キ、硫酸三七、過石三九、塩加一二です。

(2) 青刈用
次に六月下旬〜八月上旬頃にデントコーンを播種する場合を考えてみますと、降霜までの日数が不足で未熟に終わりサイレージ材料として好ましくないので、青刈利用を目的として栽培法を変えるのが得策です。

青刈用の場合は密植栽培を行ない、伸長を促進させ、短期間(六〇〜八〇日)に高収量をあげることが出来ます。この栽培法はデントコーンの時無栽培または晩播栽培とも称し暖地で普及しているものですが、北海道においても好成績が得られいかに青刈作物らしい葉の豊富な緑飼料が収穫できます。

昨年当農場(札幌市)で実施した成績は第一表のとおりです。この栽植密度は畦幅五〇センチ、株間一五センチ一本立、一〇ヶ当たり播種量(黄色種)一〇〇キ(約一三炒)で、肥料は堆肥二、〇〇〇キ、硫酸三〇キ、過石三二キ、塩加一〇キを一〇ヶ当たりに施しました。黄色種は複交八号より草丈伸長し茎も太く出穂前の状態ですが、五月中旬播きで七、〇〇〇キ以上、七月下旬播きで四、

〇〇〇キ以上の収量を得ており、密植栽培に適した品種といえましょう。一般に青刈栽培では晩生品種を用いる量的な増産を狙うのが通例となっておりますが、複交系は青刈に適していないわけでは、
播種に当たって注意すべきことは、夏は土壌が乾燥しやすく発芽不良を招く恐れがあるので、雨の前後に土壌水分の失われないうちに行なうべきで、できれば降雨直前に播種できるよう畑の準備をしておきたいものです。

生育日数は六〇〜八〇日で十分ですから、第一表のように年間二毛作が可能です。が、晩播きの限度は七月下旬〜八月上旬までとし、したがって前作のデントコーンはその頃伸長旺盛で実には勿体ないように感じられますが、七月一杯で刈終わるよう計画すべきです。
また密植栽培では茎が軟かく二割以上

第1表 デントコーンの密植栽培 (上野幌育種場 昭36)

品 種 名	播 種	刈 取	草 丈	生育相	生草収量	
					(10%)	(kg)
黄色種 複交8号	月 5 日 16	月 7 日 31	205.2 cm	出穂前	7,480	
	〃	〃	171.5	出穂始	5,520	
品 種 名	播 種	刈 取	草 丈	生育相	生草収量	
					(10%)	(kg)
黄色種 複交8号	月 7 日 31	月 9 日 28	139.4 cm	出穂前	4,280	
	〃	〃	130.8	〃	2,900	



デントコーンの密植栽培

を行ない、牛尿等の追肥を行なえば良い効果を得ることができます。

利用方法は青刈りを主体として降霜前に刈取給与し、またサイレージ材料に用いることもできます。栄養価はデントコーンとほぼ同じく、かつ茎に糖分が含まれているので家畜は好んで喰います。しかし五〇%以内の若草には青酸が含有されており家畜に有害ですから、若草の刈取りあるいは放牧は避けなければなりません。生長するにしたがって青酸は減少し、若草でもサイレージにすると安全であるといわれています。逆に霜に当たったものは青酸を含むので乾草にし毒性を失わせてから給与しなければなりません。

三 スーダングラス

スーダングラスも温暖ないし暑熱地帯に適する青刈作物ですが、北海道中央部以南では六月上旬中旬に播種し草丈二〜三呎に伸長し一〇%当たり三〜四、〇〇〇キの青刈量をを得ることができます。

スーダングラスは茎が細く小指ほどもないが多数分けつし、葉の量も多く軟かで嗜好性は良く、土壌を選ばずソルゴーよりも瘠地で吸肥性が強く耐旱性は青刈作物中最強の部類に属しています。したがって排水の良好な土壌に栽培することが大切で冷湿地では失敗することがあります。

普通五〇〜六〇%の畦幅に条播を行ない、播種量は一〇%当たり三〜四キ(約四〜六ポ)。稚苗時の生育は遅いから中耕除草手取除草を行い、窒素肥料を多く要求するのでソルゴーの場合と同様に家畜尿等を水でうすめて追肥すれば生長を促進させ増収することができます。

刈取利用についてはソルゴーと全く同様に考慮し、青刈を主とし、ただし若刈りは青酸による中毒症を惹起するので五〇%以上で生長してから利用すべきです。また再生力が旺盛(北海道では二回)なので放牧による家畜収容力は大きく、放牧草として嗜好性も高いが、若草への放牧は避け、かつ青酸含量少い品種「パイパー」を用いるのが一層安全です。もし青酸中毒で倒れた場合(空腹の牛に起こる)は早急に獣医師の診断を待たなければなりません。

スーダングラスもサイレージとして利用

第3表 スーダングラスの生草収量

(上野幌育種場 昭30)

品 種 名	播 種 期	刈 取 期	草 丈 cm	生育相	生草収量 (10%当り)	
					kg	kg
在 来 種 テフパイパー	月 5 日 24	月 10 日 12	198.6	完熟期	2,260	
			229.0	成熟期	4,450	
			227.8	ク	3,840	

でき、その栄養価はデントコーンサイレージと大体同じですが嗜好性は若干劣ります。

品種は在来種、スイート、パイパー、テフト等があり、パイパーとテフトは葉枯病に強く多収で、かつパイパーは青酸含

量の低い品種です。

四 イタリアンライグラス

イタリアンライグラスは一年生いね科牧草で生育が早く、かつ利用面が広くいろいろな用途で注目を浴びています。

夏季は生育日数七〇日くらいで出穂し草丈約七〇%に伸び、青刈、乾草、放牧、サイレージいずれの利用にも適しています。六月上旬中旬に単播栽培すれば年内二回刈りでき、八月上旬中旬に播種しても降雪までに三、〇〇〇キ(一〇%当たり)前後の生草を得ることができます。

また春播きカブの間引き、中耕除草の後にイタリアンライグラスを畦間に散播(一〇%当たり一、五〜二キ)しておけば、カブ収穫後イタリアンライグラスの圃場となり、青刈大豆畦間にも同様に栽培することができます。耐陰性は強く、覆土も雨の前

二 ソルゴー(青刈モロコシ)

ソルゴーは青刈モロコシ(蜀黍)または唐キビとも言い、サトウモロコシの一種で草姿は玉蜀黍に類似し草丈はデントコーン以上伸び、青刈収量は札幌付近で五〜六、〇〇〇キありデントコーンとほぼ同様です。

しかし元来は暑熱を好み高温早抜に強く暖地向の作物なので、北海道の北部及び東部では生育が悪く栽培に適しません。

発芽地温は一〇度以上を要し、道内では大体六月に入ってから播種するようになります。畦幅五〇〜六〇%、株間一五〜二〇%に五〜六粒宛点播あるいは条播します。

一〇%当たり播種量は二〜四キ(約二〜四ポ)。肥料は堆肥二〜三、〇〇〇キ、硫酸三五キ、過石三七キ、塩加一二キが基準量で、排水良好な土壌に栽培いたします。初期生育が緩慢なので雑草に負けないように除草

第2表 ソルゴーの生草収量

(上野幌育種場 昭35)

品 種 名	播 種 期	刈 取 期	草 丈 cm	生育相	生草収量 (10%当り)	
					kg	kg
在 来 種(黒種) 雪印ハイブリッド	月 6 日 28	月 10 日 3	220.7	開花盛期	5,720	
			243.6	結 実 期	6,240	

サイレージを作る場合には、種子の硬化はじめに刈取りデントコーンと同様カッターで一刈以内に細断、埋蔵すれば良質のものが得られます。未成熟のソルゴーサイレージは酸敗しやすく保存もよくありません。したがって早生し中生の品種を栽培すべきで「雪印ハイブリッド」が適しております。

サイレージを作る場合には、種子の硬化

四 イタリアンライグラス

後に播種することによって十分発芽いたし
ますから行なう必要はありません。ただ
し、雑草の少ない圃場を選定し、主作物収穫
後直ちに追肥を行なうことを忘れてはなり
ません。



青刈えんばくにイタリアンライの撒播

イタリアンライグラスは多少湿潤な土壤
に適し、この作物に対しても家畜尿等液肥
の効果は実に著しく、施肥法によって収量
を倍増するのは通例であります。
その他栽培及び利用方法は一般のいね科
牧草と同様です。

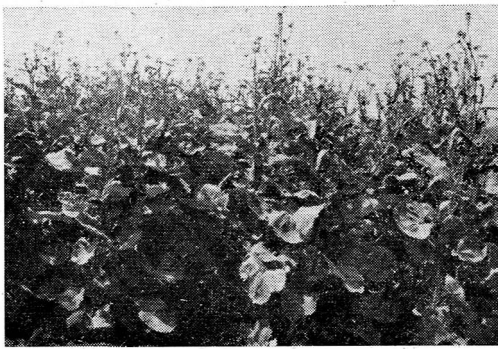
五 レープ

レープ(青刈ナタネ)は播種期の幅が広
く早春から九月上旬まで可能で、そのうち
八月中旬～九月上旬は翌春利用するための
秋播きとなりますが、八月上旬まで播種す
れば年内に青刈りあるいは放牧用として有
益に利用できます。

レープの土壤適応範囲は広く、酸性地や
湿度の高いところにも生育し、栽培は極め
て容易であり、生草収量は多く、かつ飼料価

値は蛋白質に富みまめ科牧草といね科牧草
との中間くらいで消化率もよく、その多汁
性と相まって泌乳効果の大きい作物です。
六月上旬に播種すれば八月上旬頃に約三
～四、〇〇〇キ収穫でき、八月上旬に再び播
種すれば耐寒性が強いので秋晩くまで生育
を続け降雪直前まで利用できるわけです。
生育日数を長く保つほど生草収量は高くな
りますが、夏季では大体六〇～八〇日と考
えてよいでしょう。

普通畦幅五〇～六〇彗に条播し、播種量
は一〇彗当たり〇・四～〇・五キ(約六～八
畝)。肥料は多目に施すのがよいが、一般に
は堆肥一、〇〇〇キ、硫酸三〇キ、過石二五
キ、塩加一二キくらいが適当です。特に窒
素肥料は十分与えるべきで、火山灰地、粘
土地では窒素肥料が収量を左右します。し
たがってレープの場合にも家畜尿をすすめ



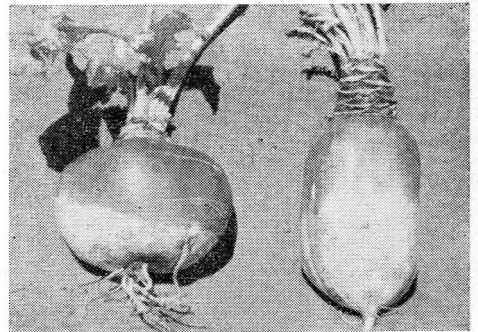
レープの生育状況

六 家畜カブ

追肥することは増収のために非常に大切
です。
いろいろある品種の中で、夏播きでは、
C・O(合成ナタネ)が最も多収を得られ
ます。C・Oは夏播きの場合、抽臺しませ
んが葉が大きく葉部のみで生草収量は十分
にあり繊維が少く栄養的にも優れておりま
す。

家畜カブの秋まき栽培は八月上旬中に播
種し、晩秋から初冬にかけて多汁質根菜と
して広く利用されており、その栽培法につ
いては殊更に記すまでもありませんが、畦
幅五〇彗、畦間二〇～二五彗。堆肥一、五〇
〇キ、硫酸三〇キ、過石二五～三〇キ、塩
加二〇キ程度を基準的に用います。
病害虫に対する防除法としては、根瘤病
にはベンタゲン一〇彗当たり二〇キを化学
肥料に併用し、蛆虫害にはヘプタクロール
(二・五%)あるいはアルドリン(二%)を
一〇彗当たり六キを同様に化学肥料と混合
して施せば殆ど完全に防ぐことができます。
また発芽直後の地蚤の害にはBHC
(二%)を一～二回散布しなければなりま
せん。

北海道では紫丸カブが広く普及し好まれ
ておりますが、丸いばかりがカブじゃなく、
「紫長カブ」という長い品種があり、当農場
で比較試験を行なった結果では根葉部とも
収量はほぼ同じく、紫長カブはス入り早い
が根瘤病の罹病率が低い成績が得られまし
た。したがって生育日数は七〇～八〇日と



紫丸かぶ(左)と紫長かぶ(右)

雪たねトピック

ルーサン リゾーマ

リゾーマは、カナダのブリテンジュー
コロンビア大学に於いて育成された匍
匐型のルーサンである。この品種は北
欧及びシベリヤに野生する黄花ルーサ
ン(Medicago falcata L.)と栽培種グ
リム(雑種色 Medicago Media P.)
と交配、その後、六代に亘って選抜し
て得られたもので、耐寒性が極めて強
く、細菌性凋萎病には弱い、グリム
と同様の生産力を持っている。米国に
於ける広範な調査では、原産地に於て
のような匍匐の性質を示さなかったと
言われるが、北海道農業試験場では、
中間型の草姿を持ち、耐寒性強く、多
収で、生産力の持続状態も良好と判定
し、北海道の優良品種として指定され
たものである。

し、根瘤病の多発する地帯で好い品種であ
ります。
(雪印種苗上野幌育種場飼料作物担当者)